

令和6年度 石狩浜海浜植物保護センター活動報告書



石狩市環境市民部
石狩浜海浜植物保護センター

目次

内容

事業概要	1
事業方針及び位置づけ.....	2
令和6年度事業計画進捗概要.....	3
I. 情報・学び・体験の場として施設機能の充実.....	3
II. データに基づく保全対策.....	5
III. 自然資源の適正管理と適正利用.....	7
IV. 石狩浜の自然に対するシビックプライド浸透のための基盤づくり.....	8
活動報告	9
I. 情報・学び・体験の場として施設機能の充実.....	9
II. データに基づく保全対策.....	21
III. 自然資源の適正管理と適正利用.....	31
IV. 石狩浜の自然に対するシビックプライド浸透のための基盤づくり.....	33
利用状況	38
調査報告一覧.....	40
海浜植物等保護地区	42
沿革.....	43

事業概要

石狩浜海浜植物保護センター（以下、「保護センター」）は、将来にわたって自然豊かな海辺環境を残していくため、石狩浜の海浜植物群落を基盤とする海浜生態系の保全を目指し、海岸利用者や市民への普及啓発、海浜生態系や海岸利用に関する調査研究、植生の保全対策などに、市民や研究機関と協働で取り組んでいます。

保護センターは平成 12 年にオープンし平成 28 年まで市の直営で運営してきました。平成 29 年度から令和 2 年度まで、運営の一部を NPO 法人に委託する形を取りましたが、令和 3 年度より再び市直営の運営となり、施設の一部であるハマナス再生園の管理や保全対策のためのデータ収集、普及啓発に関わる業務を一部委託する体制で運営しました。

今年度は、クラフト体験「漂着物とタネであそぼう」について内容の拡充、除草作業で出た廃棄植物のアップサイクルなど昨年度をベースに更なる施設の充実を図りました。

また、石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会と共催で「第 12 回はまなすフェスティバル」を開催しました。ハマナスが咲く時期に多くの方が石狩浜へ訪れ、そこからハマナスや石狩浜の大切さを考えるきっかけになればと考え、ハマナスを五感で楽しむための体験や商品を提供するとともに、石狩浜の自然環境の現状や生物多様性を知るきっかけとなるブースも設けました。

事業方針及び位置づけ

表：石狩浜海浜植物保護センター事業方針

事業方針	事業概要
I 情報・学び・体験の場として施設機能の充実	<p>【自然情報発信・体験学習事業】</p> <p>海浜植物や石狩浜の海浜生態系に関わる情報を保護センターの展示室や観察園を用いて発信し、石狩浜への興味の向上と郷土愛の醸成を図り、石狩浜の保全に関する意識へつなげる。</p>
II データに基づく保全対策	<p>【調査・研究・保全事業】</p> <p>海浜植物保全に関する生態・生育情報の収集、収集したデータの蓄積・考察・検証から必要な保全対策の検討をする。</p>
III 自然資源の適正管理と適正利用	<p>【自然資源の保全・活用】</p> <p>海浜植物等保護地区における海浜植物や地形の状況把握、過度なレジャー利用に対する注意喚起、本来の保護地区としての利活用に関する維持管理等を実施する。</p>
IV 石狩浜の自然に対するシビックプライド浸透のための基盤づくり	<p>【資源活用の基盤整備事業】</p> <p>持続可能な範囲内で海浜植物を活用していくことで、自然とのふれあいの創出や、多様な主体が保全に関わる基盤を構築する。</p>

保護センターは石狩市環境基本条例及び石狩市海浜植物等保護条例、石狩浜海浜植物保護センター条例に基づき、石狩浜に生育する海浜植物を基盤とする海浜生態系の多様性の保全に関する意識の普及啓発を図ります。また、いしかり生き物かけはし戦略（石狩市生物多様性地域戦略）、「石狩浜アクションプラン」に基づきながら、保護センター事業を進めていきます。

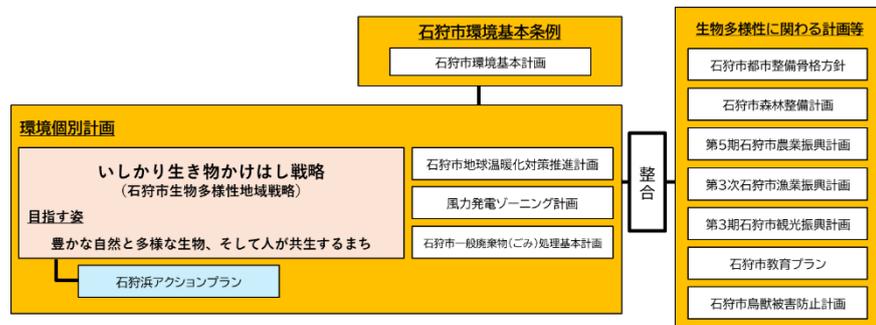


図1. 保護センター事業に関わる計画

令和6年度事業計画進捗概要

I. 情報・学び・体験の場として施設機能の充実

凡例 →：現状維持 ↗：拡充 ↘：縮小 新：新規事業

	項目	目的	年度目標・達成目標	年度評価・到達度	
① 展示室	1.常設展示の維持管理	石狩浜の成り立ち、海浜植物の生態的な特徴、石狩浜の生態系といった石狩浜の自然環境保全の基礎となる情報について展示をすることで、石狩浜の基礎的な情報を知ってもらい次の興味に繋げる。	開館中については、軽微な修繕等を継続し、来館者が見やすい施設づくりを進める。	→ 展示に合わせた海浜植物のタネの標本を整備し、実物とのつながりを多く持たせた。また、冬季閉館中に常設展示の軽微な補修に合わせて、標本の整理に合わせて展示の配置を見直した。	↗
	2.開花情報の発信	観察園の開花状況や、最新の様子発信、観察園の日常を記録し、長期的な自然情報の記録とする。	観察園の情報発信による観察園への自発的な見学者増を目指す。	→ 日常業務として、観察園の開花情報更新、開花情報をもとに来館者に積極的な観察園への誘導を行った。来館者による観察情報の発信フォームについては、体裁を整えたが実用には至らなかった。	→
② 観察園／ハマナス再生園	1.園路およびサインの整備・維持管理	来館者が安全・安心な環境のもと、快適に園内散策ができるように整備をする。	観察に適した園路の維持管理。 必要に応じた木道等の修繕。 植物名等のサイン表示。	→ 日常業務内で園路の維持管理を実施したほか、来館者の快適な散策のためにサインの追加、ドクガの防除、清掃など状況に合わせて対応した。	→
	2.ゾーンの目的に沿った植生維持管理★	①来館者に対し、石狩浜の見本的な植生を観察できる場とする。 ②アクティブラーニングを主として、海浜植物の生態的な特徴を展示と連動して学べるように管理する。 ③植生維持に関する生育情報を蓄積し、海浜植物の保全に活用する。 ④多様な主体の参加による植生維持管理を進める。	【観察園】 再現区：带状構造に沿った現状植生の維持管理。半安定帯の維持管理について知見を蓄積。ほりほりゾーン：環境学習、夏休み自由課題等での利用促進。 【ハマナス再生園】 市民参加によるハマナス群落の維持。	↗ 【観察園】 野外調査データをもとにした植生管理（外来種の抜き取り/生育種の調整/ハマナスの剪定）を再現区を中心に取り組んだ。再現区については、環境学習を中心に実物をもとに観察し、場合によっては児童に触らせたり、ちぎってみたり自由に体験ができるように整備した。ほりほりゾーンについては、次年度を考え、外来種防除をかねて一部拡大した。 【再生園】 参加型植生管理として、ハマナス Healthy タイムを5回実施し延べ34人が参加した。植生管理で発生した除草植物を活用した普及啓発を進めた。市民参加型管理が及ばない管理として、低木類の剪定、園路の整備、機械を使った刈払いなど適宜行った。	↗

★：委託業務を含む

③ 情報発信	1.ホームページ維持管理 2.情報誌の発行 3.近隣施設での情報案内	石狩浜の自然について、遠隔地に向けた普及啓発を目的に、ネットワークを活用した情報発信。また、市民の自主的な石狩浜の保全活動につながる情報の発信、活動の展開を図る。	海浜植物や、保護センターでの情報、石狩浜の生物多様性について広く情報を発信する。	→	前年同様に機関誌の発行、回覧板を作成したほか調査写真や、観察園の開花情報などインスタグラムにて発信した。	↗
	4.CISE ネットワーク・館ネットワーク・その他団体主催事業への協力・出展	石狩市外を中心に、石狩浜及び保護センターについて積極的なPR。 自主的な活動が円滑に進むための広報等を支援する。	外部ネットワークへの可能な範囲内で事業協力。 自主活動への広報等の支援の実施。	→	館ネットワークや石狩市民図書館、CISE ネットワークが主催するイベントに参加し、市内外の参加者に広く石狩浜の自然について普及した。	→
④ 調査研究の発信	調査研究報告、学習報告等の掲示	石狩浜の自然に関わる、研究機関や教育機関等による研究や取組について紹介することで、より深い活動について知る機会を創出。	石狩浜に関する研究情報や、環境学習での学習成果等を2～3件を目標に掲示する。	→	石狩浜での研究について2件を掲示した。	→
⑤ 来館者のニーズ、意識把握	アンケートの実施	来館者の意見を聞く機会の創出。	来館されたお客様の率直なご意見を伺い、運営の参考にする。 オンラインアンケートも検討する。	→	オンラインアンケートについて現在の内容でオンライン化を整え、クラフトコーナーでアンケートフォームの二次元バーコードを設置した。設置箇所と内容の検討は次年度行うこととした。	→

★：委託業務に含む

Ⅱ. データに基づく保全対策

凡例 →: 現状維持 ↗: 拡充 ↘: 縮小 新: 新規事業

	項目	目的	年度目標・達成目標	年度評価・到達度	
① 現植生・生物相の把握	石狩浜モニタリング調査★	【植物】 石狩浜の植生遷移や変化を把握、観察園における植生管理の基礎データ等を目的に長期的なデータの蓄積を図る。	・令和5年度に設定した見本植生区のモニタリングを続ける。 ・遷移が進む植生帯の状況を把握する。	→ 現地調査を7-9月に実施した。	→
		【動物】 石狩浜を利用する生物種を対象に、その種の動向を自動撮影カメラ等を用いながら随時状況を確認し、対策等に必要情報を収集する。	必要に応じて、種の生息地マッピング及び、生息状況の確認。	↗ はまなすの丘公園内にエゾシカによる湿地性植物への食害を把握するために自動撮影カメラを設置した。 昆虫相を把握するために、保護センター観察園と再生園で参加型の捕獲調査を実施した。	↗
② 植生管理に係る手法の検討・検証	1. 聚富海岸植生再生試験(モニタリング調査協力)★	海浜植生の再生手法の検討(主催:道総研)	道総研との連携協力。	→ 昨年同様に7月に植生調査を実施した。	→
	2. 海浜植生の維持管理手法の検証(海岸草原保全手法の検討)	現地調査データを参考に、海浜植生の効率的な維持管理を模索し、保全管理に関わる知見や技術を蓄積する。	・見本植生区のデータに基づいた植生管理(観察園、ハマナス再生園)。 ・自生種による外来種防除実験の検証。	→ 観察園内の23区で継続植生調査を実施し、結果から必要に応じて管理(I-②-2)を行った。ハマナス再生園の22区で継続植生調査を行い、変化を把握した。チガヤの刈取りについて、管理手法の見直しを行った。前年度から継続調査をしているハマナスの生育を阻害している種の除去後に移植した海岸草原種については、移植種の生育が遅く、十分に効果を把握できなかった。	→

★: 委託業務に含む

③希少種	1.希少種イソスミレの生育状況の把握	希少種イソスミレの生育地について、地理情報及び植生構成を押さえ、環境変化に左右されやすいイソスミレの保全対策に繋げる。	イソスミレの分布と、個体群構成調査、周囲の植生調査の継続。★	→	はまなすの丘公園での分布状況を把握した。親船地区での保全を進めるため、サイズ構造や周囲の植生の状況を調べた。内陸性の植物に覆われて生育が危うい集団について、周囲の内陸植生を刈取ってその後の生育状況を観察した。	↗
	2.ハマボウフウの生育状況の把握	保護地区内外のハマボウフウの生育状況の比較と継続的な採取圧による生育への影響を把握し、今後の自然ふれあい地区におけるハマボウフウの科学的データに基づいた持続可能な資源利用への根拠データとする。	設定した調査ラインでエリアごとの生育状況、採取状況について把握する。	→	ラインごとのサイズ別株数の把握は数年ごとに行うこととし、今年には行わなかった。ハマボウフウの生育に影響を及ぼす内陸植生の分布を把握するため、エリアごとに植生の帯状構造を把握した。監視員業務等の情報を用いて採取状況を把握した。	→
	3.その他	環境省及び北海道のレッドリストに記載されている希少種、及び個体群として今後石狩浜で状況を押さえる必要がある種について、生育・分布情報をモニタリングし、対策に繋げる。	エゾスカシユリ、エゾチドリの分布状況について記録。	→	エゾスカシユリ、エゾチドリの開花時期に位置情報を記録、分布を把握した。	→
④外来種	現状の把握★	石狩浜の生物多様性保全のために、外来種の早期発見と防除の実施を検討する。	他機関や他の調査等の情報をもとに、外来種の早期発見をすると共に、必要に応じて早急な防除対策に努める。	→	他の調査で発見した情報について随時共有し、マップングした。	→
⑤資料・データの集約・管理	1.標本の管理	地域資料の保管と、保全を進めるための情報の収集と管理をする。	適切な環境で保存されるように、日常的な点検をする。	→	日常業務として温湿度管理、年に1回の状態確認と防虫剤交換を実施した。また、主要な海浜植物の樹脂標本を整備し、次年度の展示に向けて整備した。	→
	2.自然情報の収集・管理	環境調査、モニタリング、その他石狩浜に関わる調査研究の報告書などのデータを一括管理し、保全及び情報発信のデータベースとして構築する。	収集データについて、まとめて公開できる体制を検討する。★	→	次年度以降のために主要な生き物について、公開できる素材(動画・静止画等)を整理した。	→

★：委託業務に含む

Ⅲ. 自然資源の適正管理と適正利用

凡例 →: 現状維持 ↗: 拡充 ↘: 縮小 新: 新規事業

	項目	目的	年度目標・達成目標	年度評価・到達度	
①保護地区の利用状況把握・監視・維持管理	1.車両侵入の有無、誘導ロープ等の設置・修繕	条例に基づいた海浜植物等保護地区の海浜植物等を保全するための維持管理をする。	監視員の情報をもとに現状を把握し、必要に応じた対策を都度実践する。	→ 監視員を配置し、保護地区内の海浜植物等の保全に努めた。	→
	2.単管柵の維持管理			→ 必要に応じて保護地区の情報共有を実施した。	→
②景観保全による観光資源利用	はまなすの丘公園周辺の植生維持管理	海浜植生の維持と、観光地の景観保全を目的にした植生管理を図る。	公園内における持続可能で効果的な外来種等の防除を検証する。	→ 監視業務の中で、ニセアカシア、アキグミ、セイタカアワダチソウについて9月に集中的に防除をした。	↗
③保護地区のルールの普及啓発	体験プログラムを通じた自生地保全の普及啓発	自然とのふれあいを通じて、保護地区や石狩浜の自然に関する普及啓発を図る。	既存のプログラムに連動した保護地区の普及啓発の実施。	→ 環境学習内で保護のあゆみと、自然ふれあい地区についての学習を実施した。	→

★: 委託業務に含む

IV. 石狩浜の自然に対するシビックプライド浸透のための基盤づくり

凡例 →：現状維持 ↗：拡充 ↘：縮小 新：新規事業

	項目	目的	年度目標・達成目標		年度評価・到達度	
①環境学習・生涯学習	1.教育機関へのプログラムの実施★	石狩浜の自然や海浜植物について、アクティブラーニングを主体にした学ぶ機会の創出を目指す。	・継続的な実施と見直しを続ける。 ・生物多様性の発信に向けた内容の見直し。	↗	昨年度の実績を踏まえ、補助教材を再度作成した。また、引き出しクイズを再開し、子どもたちの興味を引き出すことができた。 中学校に対しては、保護センターが取り組む生物多様性保全に関わる事業を整理し体系的に学べるプログラムに改めた。	↗
	2.センター施設を活用したプログラムの実施		・海浜植物の特徴を利用した体験プログラムの実施。 ・植生管理と連動した資源活用プログラムの開発。	↗	クラフト体験について、流木を活用したフォトスタンドを新たに追加した。その他、観察園の管理作業で出た廃材を活用し、クラフトの拡充を図った。 昆虫調査体験会を開催し、海岸草原の昆虫を知ってもらう場を設けた(Ⅱ-①-2)。 ハマナス再生園の植生管理で刈り取ったチガヤを使ったワークショップを開催し、海浜植物の保全について知ってもらう場を設けた。	↗
	3.センター外での普及啓発の実施		・石狩浜トランクキットや、センタープログラムを活用した市外イベントへの参加協力。	→	センター外での利用に合わせて、クラフト体験キットの整備、樹脂標本の整備をした。 トランクキットを使って海浜植物や生きもののつながりを学ぶ場を設けた(Ⅰ-③-4)。	→
②ハマナスを活用した普及啓発	ハマナスをシンボルとした石狩浜の魅力向上と、自然環境保全に対する普及啓発を石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会とともに目指す。	・再生園のハマナスを活用したイベント、体験や学習の受け入れ協力。 ・地域資源として花卉・花びらを活用する企業への協力。★	→	はまなすフェスティバルを石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会と共催した。再生園で実施しているハマナスの実摘みを体験プログラムとしてパッケージ化した。館内のクラフト体験と連動して、ハマナスクイズを行うなど、ハマナスを通じた普及啓発を進めた。	→	
③参加型普及啓発	市民参加型の自然情報収集	オンラインフォームを活用し、自発的に石狩浜の自然を観察する人を増やす。	情報フォームの作成、集めた情報の公開基準、保管などの体制を整える。	↗	作成について検討はしたが、体制等まで整えまで至らなかった。	↘

★：委託業務に含む

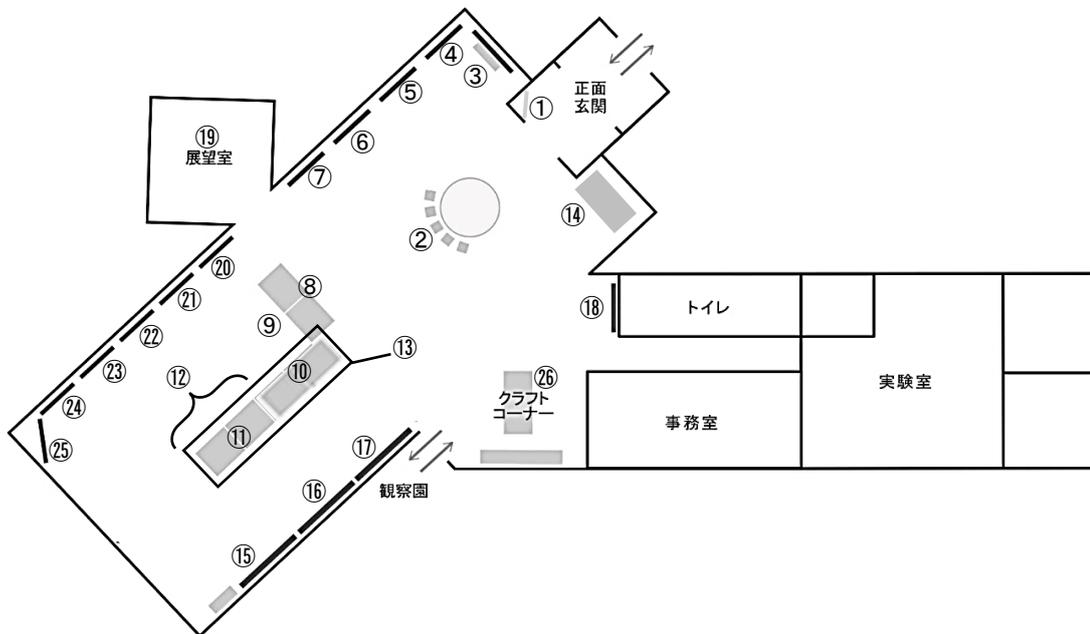
活動報告

I. 情報・学び・体験の場として施設機能の充実

① 展示室

項目	目的
1. 常設展示の維持管理★	石狩浜の成り立ち、海浜植物の生態的な特徴、石狩浜の生態系といった石狩浜の自然環境保全の基礎となる情報について展示をすることで、石狩浜の基礎的な情報を知ってもらい次の興味に繋げる。
2. 開花情報の発信	観察園の情報発信による観察園への自発的な見学者増を目指す。

〈展示室概要図〉



- ① 観察園みどころボード(随時更新)
- ② 石狩浜の成り立ち
- ③ 保護地区情報/海浜植物保護のあゆみ
- ④ 生きものごよみ
- ⑤ 石狩浜海浜植物等保護地区
- ⑥ 石狩浜の地形
- ⑦ 全国の海岸砂丘
- ⑧ 海浜植物の紹介
- ⑨ 石狩浜の地形と海浜植物
- ⑩ 石狩浜の生態系模型
- ⑪ 石狩浜に暮らす生きものつながり
- ⑫ 石狩浜の生きもの
- ⑬ 引き出しクイズ

- ⑭ 掲示コーナー
- ⑮ ハマナス再生プロジェクト/ハマナス再生園活動紹介
- ⑯ 調査研究コーナー
- ⑰ 石狩浜情報
- ⑱ イベント情報ボード
- ⑲ 眺望できる山のイラスト(展望室の窓)
- ⑳ 不安定帯-後浜の植物
- ㉑ 不安定帯-第1砂丘前面の植物(1)
- ㉒ 不安定帯-第1砂丘前面の植物(2)
- ㉓ 半安定帯-第1砂丘背面の植物
- ㉔ 安定帯-第2砂丘前面の植物
- ㉕ 安定帯-第2砂丘背面の植物(海岸林)
- ㉖ クラフトコーナー

1. 常設展示の維持管理

年度目標	開館中については、軽微な修繕等を継続し、来館者が見やすい施設づくりを進める。
------	--

開館前に、空いているスペースを活用し常設展示に合わせて海浜植物のタネ標本と自生地の風景写真を設置しました。風景写真については、フレームをハマナス再生園の維持管理で出るチガヤの葉を活用し作成しました。空いている小スペースでの工夫でしたが、来館者の目に留まり注目している様子が見られました。中には、写真を撮り、とても興味を持って見ていた様子も見受けられました。引き出しクイズについても、軽微な修理をしたのちに再開した結果、子どもたちが利用している様子が見られました。ハマナス再生プロジェクトのコーナーでは、海浜植物保全のための植生管理の必要性、植生管理で刈り取った植物（チガヤ）の活用の可能性などについてポスターを作成して掲示するとともに、チガヤで作ったかごなどを展示し、刈取り作業（ハマナス Healthy タイム）への参加を促しました。



図 1.1 展示室のようす

2. 開花情報の発信

年度目標	観察園の情報発信による観察園への自発的な見学者増を目指す。
------	-------------------------------

昨年度に引き続き、来館者の観察園利用を増やすために、今まで観察園出入口に設置したあった開花情報ボードを保護センターの入口に設置し、植物を見られる施設であることを分かりやすくしました。

また、クラフトやチガヤの活用について宣伝も兼ねて、開花情報ボードの横にクラフトの見本やチガヤのブーケ、そのほかイベントのポスターも配置しました。写真や作品に一度目を通してから入館されることが多く、観察園へ足を運ぶ人の割合が高く感じました。



図 1.2 開花情報の更新

②観察園/ハマナス再生園

項目	目的
1. 園路およびサインの整備・維持管理	来館者が安全・安心な環境のもと、快適に園内散策ができるように整備をする。
2. ゾーンの目的に沿った植生維持管理★	①来館者に対し、石狩浜の見本的な植生を観察できる場とする。 ②アクティブラーニングを主として、海浜植物の生態的な特徴を展示と連動して学べるように管理する。 ③植生維持に関する生育情報を蓄積し、海浜植物の保全に活用する。 ④多様な主体の参加による植生維持管理を進める。

開館当初から目的にあった「代表的な石狩浜の植物が見られ、海浜植物の特徴を体験できる場所」を目指し、観察園内をいくつかに分けをして管理しています。

石狩浜の代表的な植生が見られる自生地に設定した見本植生区をもとに、再現を目指して管理をしています(図 1.4)。特に、中央部分に設定している植生再現区は、波打ち際の後浜から海岸林までの帯状構造を再現しています。背丈が低く、植物の種数が少ない後浜から、背丈が高くなり植物の種数が増える海岸林縁まで、石狩浜の植生を特徴づける植物が見られるように管理をしています。また、来館者が海浜植物の長い地下茎や根を実際に観察・体験できるように「ほりほりゾーン」を設置しています。



図 1.3 植生管理コンセプト

表 1.1 再現区ゾーン分け

No	自然状態	主な構成種
①	後浜～浜崖下・不安定帯	オカヒジキ、ハマヒルガオ・コウボウムギ、ハマニガナ
②	第一砂丘尾根～斜面・不安定帯～半安定帯	テンキグサ、ハマボウフ、ウンラン、コウボウムギ
③	第一砂丘斜面～後背平坦地の植生・半安定帯	ハマハタザオ、イソスミレ、ハマエンドウ
④	第一砂丘後背平坦地の植生・半安定帯～安定帯	ハマナスが優占
⑤	第一砂丘後背平坦地の植生・安定帯	エゾノカワラマツバ、エゾカワラナデシコ、ハマエンドウ、ハマヒルガオなどとハマナスの混生
⑥ ⑦	第一砂丘後背平坦地～緩傾斜の第二砂丘の植生・安定帯	ハマナス、ミヤマアキノキリンソウ、エゾカワラナデシコ、オオヤマフスマなどとハマナスエゾスカシユリ、ヒロハクサフジなどの混生
⑧	第二砂丘斜面～尾根部の植生・安定帯	ハマナスと高茎種・蔓性種の混生

1. 園路およびサインの整備・維持管理

年度目標	来館者が安全・安心な環境のもと、快適に園内散策ができるように整備をする。
------	--------------------------------------

普及啓発が主となる再現区については、多人数の見学時でも海浜植物の名前が分かるように左右に同じプレートを設置しています。景観を楽しむ場所については、プレートを必要最低限に減らすことで、普及啓発と景観を楽しむことが出来る観察園作りに努めました。



図 1.4 観察園全体と再現区

2. ゾーンの目的に沿った植生維持管理

年度目標	<p>【観察園】</p> <p>再現区：帯状構造に沿った現状植生の維持管理。半安定帯の維持管理について知見を蓄積。</p> <p>ほりほりゾーン：環境学習、夏休み自由課題等での利用促進。</p> <p>【再生園】</p> <p>市民参加によるハマナス群落の維持。</p>
------	---

【観察園】

自生地の見本植生区を参考に、日常的に外来種や内陸性植物を除去しました。特に再現区では、イソスミレ・ハマハタザオなどの苗移植、ハマナスの選択的な間引きをすることによってハマエンドウを増やし、より自生地の植生に近づけるような管理をしました。また、閉館後には翌年のハマナスの生長を考えた古枝の剪定や間引き、後浜から第一砂丘の掘り起こし、砂かけなど、砂浜環境で見られる攪乱を人為的に再現しました（Ⅱ-②-2）。



図 1.5 再現区

ほりほりゾーンについては、トゲのあるハマナスや、砂の表面に根を張るコウボウシバの間引きをすることで、体験がしやすいように管理しました。

閉館に合わせて、イネ科の外来種やコ

ウボウシバが増えたことから大規模な抜根、リターを減らすための地上部の刈取りをすることで、次年度以降の管理作業の削減を目指しました。

その他、観察園の入口から近い園路の一部を「海浜植物の見本区」に設定し、短い距離で主な海浜植物を見えるように整備しました。また、プランターで育てた林縁の植物を日影となるヤマブドウの下に設置しました。



図 1.6 林縁の植物の配置



図 1.7 ほりほりゾーン



図 1.8 ほりほりゾーン（刈取り後）

表 1.2 ゾーン別作業内容

ゾーン	作業内容
①	春：移植（オカヒジキ） 秋：砂の掘起こし、砂かけ、播種（オカヒジキ） 通年：コウボウシバ、内陸性植物の除草※
②	秋：砂かけ、苗の移植（ウンラン） 通年：密度の高い海浜植物の間引き、コウボウシバ・内陸性植物の除草※
③	秋：砂かけ、移植（イソスミレ、ハマハタザオ） 通年：イソスミレ・ハマハタザオ周辺の除草、コウボウシバ・内陸性植物の除草※
④	秋：剪定（ハマナス） 通年：密度の高い海浜植物の間引き、コウボウシバ・内陸性植物の除草※
⑤	春：除草（株が肥大したスズメノヤリ、チャシバスケ） 夏：除草（ヒロハクサフジ） 秋：剪定（ハマナス）、間引き（スズメノヤリ・コウボウなど） 通年：内陸性植物の除草※※
⑥	夏：除草（ヒロハクサフジ・カセンソウ） 通年：内陸性植物の除草※※
⑦	夏：間引き（ヒロハクサフジ） 通年：内陸性植物の除草※※
⑧	夏：間引き（ヒロハクサフジ） 秋：移植（エゾスカシユリ） 通年：内陸性植物の除草※※

※：スギナ、メヒシバ、ナガハグサ、ヒメスイバ、チガヤなど

※※：ナガハグサ、ヒメスイバ、ヘラオオバコ、カモガヤ、ホソムギ、ブタナ、オオアワダチソウ、ユウゼンギク、イワミツバ、ツルニチニチソウなど

【ハマナス再生園】

「ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくりを進めること」を目的とした「石狩浜ハマナス再生プロジェクト」の一環で整備しています（Ⅳ-②）。再生園の役割は、ハマナス彩る砂丘の風景を再現するための試験地であり、参加型の維持管理、環境学習利用や石狩浜のPR するための商品開発などの幅広い活動を支える基盤となっています。

日常の維持管理については、観察園同様に自生地の見本植生区を参考に、ハマナスを主とした海浜草原の維持管理を続けています。



図 1.9 ハマナス再生園（令和 6 年 8 月）

日常的には、ハマナスの生育を妨げる内陸性植物の除草や剪定、自生地の植生に基づいた種の移植、園路の除草などの管理をしました。また、昨年度に引き続き、再生園の花や実を利活用する事業者や市民による参加型の植生管理作業日を「ハマナス Healthy タイム」として表 1.3 のとおり開催しました。今年度は休日の開催、CSR 活動日を新たに設けました。新しい参加者層の拡充を図ったことから、作業時間を短縮し、レクチャーや観察会、ローズヒップティー試飲など、学びや体験を合わせることでハマナスや石狩浜の自然への理解を深めてもらう内容にしました。結果として新規の参加もあり、直接的な除草だけではなく、レクチャー等による石狩浜の普及啓発に繋げることができました。



図 1.10 Healthy タイム

表 1.3 ハマナス Healthy タイム実施状況

日にち	参加者数	作業内容・備考
5月18日（土）	3人	チガヤの葉と穂の除去
7月11日（木）	5人	チガヤ除去、ハマナスビネガーシロップ試飲、ハマナスミニレクチャー
9月14日（土）	12人（6人）	ハマナス移植、海岸草原種移植、チガヤ除去、ローズヒップティー・ハマナスハニー試飲、保護センターミニレクチャー（ススキ）
10月 5日（土）	14人	チガヤ除去、ローズヒップティー試飲、ハマナスミニレクチャー
10月10日（木）	4人	ハマナス1年目苗植替え、カシワ苗植替え、ハマナス採種・播種、保護センターミニレクチャー（カシワ）
計 5回	38人	

※（）内は参加した中学生以下的人数

また、日常の管理やハマナス Healthy タイムで刈り取ったチガヤの穂や葉の有効活用について検討しました。穂はブーケに、葉は『わら細工』の材料やマルチング材として束にし、ハマナス再生園の維持管理に必要な鎌などを購入するための募金の返礼品と



図 1.11 募金箱と返礼品のブーケ



図 1.12 かごの編み方

しました。あわせて、来館者へ活動の趣旨について紹介しました（I-①-1）。次年度以降も、再現したハマナス群落の維持管理手法や技術を蓄積しつつ、持続的な参加型管理のあり方を検証するとともに、活用しやすい環境づくりに努めます。

③情報発信

項目	目的
1. ホームページ維持管理	石狩浜の自然について、遠隔地に向けた普及啓発を目的に、ネットワークを活用した情報発信。 また、市民の自主的な石狩浜の保全活動につながる情報の発信、活動の展開を図る。
2. 情報誌の発行	
3 近隣施設での情報案内	
4. CISE ネットワーク・館ネットワーク・その他団体主催事業への協力・出展	石狩市外を中心に、石狩浜及び保護センターについて積極的なPR。 自主的な活動が円滑に進むための広報等を支援する。

1. ホームページ維持管理/2. 情報誌の発行/3. 近隣施設での情報案内

年度目標	海浜植物や、保護センターでの情報、石狩浜の生物多様性について広く情報を発信する
------	---

業務委託の範囲でインスタグラムを開設し、イベントや作業が終わった後に更新をしました。冬期閉館中も更新し、冬の情報発信が今まで手薄でしたが、生物多様性の情報発信をするようになりました。

また、石狩市民図書館にある海浜植物花壇についても、1か月に1度は点検できるように調整し、除草や補植をしました。



図 1.13 インスタグラム



図 1.14 海浜植物花壇

4. CISE ネットワーク・館ネットワーク・その他団体主催事業への協力・出展

年度目標	外部ネットワークへの可能な範囲内で事業協力。 自主活動への広報等の支援の実施。
------	--

「いしかり館ネットワーク」主催で昨年度から開催しているわくわくコーナー夏休み館ネット DAY や、「一般社団法人ちせ」が主催したイベント等へのブース出展をしました。館外での活動を通じ、保護センターへの来館に繋がることもあり引き続きセンター内外問わず活動を続けていきます。

表 1.4 令和 6 年度団体主催事業への協力

実施日	タイトル	場所	主催
7月27日(土)	わくわくコーナー夏休み館ネット DAY	石狩市民図書館	いしかり館ネットワーク
9月22日(日)	第14回科学の祭典 in 石狩	石狩市民図書館	科学の祭典 in 石狩実行委員会
11月9日(土)	ウミベオロジー／石狩海辺学 2024 ウミベとコンブー歴史・生態・利用一	紀伊國屋書店札幌本店(札幌駅西口) 1階インナーガーデン	いしかり館ネットワーク
2025年 1月9日(木) 10日(金)	CISE サイエンスフェスタ 2024	大通交差点広場	CISE ネットワーク



図 1.15 第 14 回科学の祭典 in 石狩



図 1.16 ウミベオロジー／石狩海辺学 2024 ウミベとコンブ-歴史・生態・利用-



図 1.17 第 10 回 CISE サイエンスフェスタ 2024

④調査研究の発信

項目	目的
調査研究報告、学習報告等の掲示	石狩浜の自然に関わる、研究機関や教育機関等による研究や取組について紹介することで、より深い活動について知る機会を創出。

調査研究の発信

年度目標	石狩浜に関する研究情報や、環境学習での学習成果等を 2～3 件を目標に掲示する。
------	--

前年度まではパネルでの展示をしていましたが、常時展示をすることで多くの人に知る機会を設ける内容であるため、新しく展示スペースを設けました。現在取り組んでいる研究内容について、専門的な言葉に偏らない表現でまとめ、掲示しました。

表 1.5 掲示一覧

No	期間	内容	団体
①	4 月 29 日（月）～ 7 月 25 日（木）	春先の採取がその後のハマボウフウの生育におよぼす影響	合同会社 いしかり植物ラボ
②	7 月 26 日（金）～ 11 月 3 日（日）	石狩浜周辺における外来カエル 3 種の分布について 外来種アズマヒキガエルは石狩浜で何を食べているのか	リンクアス

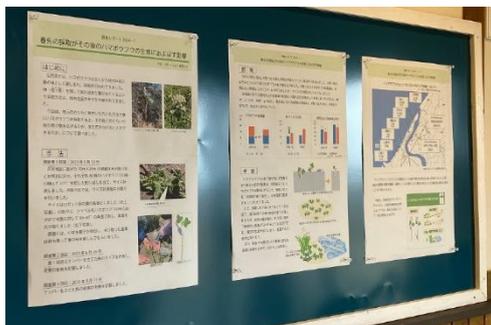


図 1.18 ①の掲示様子



図 1.19 ②の掲示様子

⑤来館者のニーズ、意識把握

項目	目的
アンケートの実施	来館者からの意見を聞く機会の創出。

1. アンケートの実施

年度目標	来館されたお客様の率直なご意見を伺い、運営の参考にする。 オンラインアンケートも検討する。
------	--

令和6年度の有効回答枚数は19枚でした。回答の内訳は下記のとおりです。

問1. お住まいについて伺います。(19件)

1. 石狩市 (2)	2. 札幌市 (11)	3. 道内 (5)	4. 道外 (1)	不明 (0)
------------	-------------	-----------	-----------	--------

問2. 年代 (18人)

20歳未満 (0)	20代 (3)	30代 (3)	40代 (5)	50代 (1)	60歳以上 (5)	その他 (1)
-----------	---------	---------	---------	---------	-----------	---------

問3-1. 当センターのご利用に関して (18件)

はじめて (8)	数年に1回 (4)	年に1 (3)	年に1回以上 (2)	その他 (1)
----------	-----------	---------	------------	---------

問3-2. 来館目的を教えてください。(複数回答可/28件)

1. なんとなく入ってみた (5)	2. 休憩・トイレ (4)
3. 開花情報を知るため (2)	4. 石狩浜の自然を知るため (7)
5. 保護活動について知るため (2)	6. 当センターのイベントへの参加 (2)
7. 観光 (2)	
8. その他 (4) (工作のため/クラフト体験をするため/鮭祭り近くまで来ていたため/フットパスで/)	

問3-3. 当センターをお知りになったきっかけを教えてください (19件)

1. 通りがかり (9)	2. 新聞・雑誌 (1)
3. 広報いしかり (2)	4. センターHP (1)
5. 他施設での情報 (1)	

6. その他 (5) (海のクリーンアップ大作戦の帰り/毎年来ている/昔自分の両親と来て今度は自分の子供と来たかった/石狩に住んでる姉に聞いて)

問 4. 当センターをご利用になって面白かったり、興味深いと感じた展示や活動はありましたか。(62件)

1. 特になかった (0)	2. 季節の自然情報 (8)
3. 海浜植物保護のあゆみ (3)	4. 地形のなりたち (7)
5. 石狩浜の自然 (6)	6. 海浜植物 (8)
7. 海辺の生き物 (5)	8. 展示全般 (7)
9. その他 (展示) (2) (とても良かったです/タネで遊んでみようコーナーとても楽しかったです)	10. 観察園 (8)
11. 石狩浜ハマナス再生プロジェクト・ハマナス再生園 (5)	
12. その他 (3) (体験モノ作り、無料なのに記念になった/クラフト。昔両親と来た際に作ったものはまだ実家に飾られています。また作りたかったです。)	

問 5. 館内の展示について (19件)

1. むずかしい (0)	2. ややむずかしい (0)
3. ふつう (1)	4. まあまあわかりやすい (3)
5. わかりやすい (15)	

問 6. 当センターを、また利用したいと思いますか。(19件)

1. まったく思わない (0)	2. あまり思わない (0)
3. どっちともいえない (0)	4. ややそう思う (1)
5. そう思う (18)	

問 7. 次のうち、参加したいと思うイベントやボランティア活動はありますか。(24件)

1. 参加したいとは思わない (0)	2. 自然観察会 (12)
3. 石狩浜の自然や海浜植物の保全に関する講演会 (3)	4. ハマナス healthy タイム (1)
5. はまなす育成サポーター (2)	6. 石狩灯台周辺の景観維持のための除草作業 (1)
7. 市民参加で行う植物調査 (1)	8. 外来動物の捕獲・駆除 (0)
9. 石狩浜のゴミ拾い活動 (4)	10. その他 (0)

問 8. 当センターへのご意見、期待することなど、ご自由にお書きください。

・展示物を定期的に入れ替え、マンネリ化を防ぐ努力をされているのは良いと思います。ハマナスの植生地を広げる取り組みにも期待しています。貴センターのさらなるご活躍をお祈りします。
 ・また寄りたいです。
 ・ほりほりゾーンの貴重な体験ができ、子供達は楽しかったようです。
 ・自然保護
 ・石狩の自然についてたくさん知ることができるので、これからもこの場所であってほしいです。昔からの思い出の1つになっています。ありがとうございます。
 ・今後もぜひ利用したいです。ハマナス保全のため頑張ってください

Ⅱ. データに基づく保全対策

① 現植生・生物相の把握

項目	目的
石狩浜モニタリング調査★	【植物】 石狩浜の植生遷移や変化を把握、観察園における植生管理の基礎データ等を目的に長期的なデータの蓄積を図る。
	【動物】 石狩浜を利用する生物種を対象に、その種の動向を自動撮影カメラ等を用いながら随時状況を確認し、対策等に必要な情報を収集する。

石狩浜モニタリング調査

【植物】

年度目標	【植物】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度に設定した見本植生区のモニタリングを続ける。 ・ 遷移が進む植生帯の状況を把握する。
------	---

前年度からの継続で、計 28 箇所 39 区（安定帯 14 箇所 22 区、不安定帯 5 箇所 5 区、不安定帯 9 箇所 12 区）で植生を記録しました（図 32. 1）。このうち 7 箇所 14 区は地方独立行政法人北海道立総合研究機構（以下道総研）の石狩浜植生再生試験の再生目標区です（図 2. 1 の赤色ピンマーク）。知津狩浜で前年度では浜崖下にあった調査区が、浜崖上となっていたほかは大きな変化は見られませんでした。今後も継続したモニタリングを続けていきます。



図 2. 1 自生地に設定した調査区の位置

【動物】

年度目標	【動物】 必要に応じて、種の生息地マッピング及び、生息状況の確認。
------	--------------------------------------

昆虫相の情報を蓄積するため、昆虫調査体験会を開催し、採集調査を実施しました（Ⅳ-①-2）保護センターの観察園とハマナス再生園で採集し、採集した昆虫は後日有識者による種同定及び標本の作製をお願いしました。調査の結果、27科29種が同定されました。捕獲した昆虫は、草原でみられる種類が多い結果となり、海浜環境の指標となる種も複数確認することができました。



図 2.2 調査で採集した昆虫（一部）



図 2.3 調査の様子

近年、石狩浜で実施している調査から、エゾシカの自動撮影カメラへの映り込みや、海浜植物への食痕が見られ始めました。他地域ではエゾシカによる海浜植物への食害が事例としてあることから、石狩浜の現状を調べるために、はまなすの丘公園の湿地に自動撮影カメラを設置しました。今回設置したはまなすの丘公園の湿地については、過去にタチギボウシやノハナショウブにエゾシカの食痕と思われる痕跡がいくつかあったため、調査地として選定しました。設置期間は7月から10月までの3か月間で計2台を設置しました。2台で撮影枚数は17,510枚となりましたが、エゾシカの撮影はありませんでした。今回のデータでは映り込みはなかったものの、石狩浜を走行中にエゾシカを見かけることが年々増えており、引き続き注視していく必要があります。



図 2.4 設置した自動撮影カメラ



図 2.5 石狩浜で見られたエゾシカ

②植生管理に係る手法の検討・検証

項目	目的
1. 聚富海岸植生再生試験・モニタリング調査協力★	海浜植生の再生手法の検討（主催：道総研）。
2. 海浜植生の維持管理手法の検証（海岸草原保全手法の検討）★	現地調査データを参考に、海浜植生の効率的な維持管理を模索し、保全管理に関わる知見や技術を蓄積する。

1. 聚富海岸植生再生試験・モニタリング調査協力

年度目標	道総研との連携協力。
------	------------

令和2年より、道総研が海浜植物群落や原生花園を維持・再生するための試験をしています（石狩浜植生再生試験）。内容は、聚富原生花園および海側の砂丘草原において、内陸性植物の侵入が著しい地点の表土を剥ぎ取る「掘取区」、掘り取った土を積み上げる「盛土区」、処理を施さない「対象区」、内陸性植物の侵入がほとんどない地点に「再生目標区」を設け、処理後の植生回復過程の把握や再生目標区の植生モニタリング等を実施しています。保護センターも、植生モニタリング調査に協力しました。

（調査期間：令和2～6年度）

2. 海浜植生の維持管理手法の検証（海岸草原保全手法の検討）

年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・見本植生区のデータに基づいた植生管理（観察園、ハマナス再生園）。 ・自生種による外来種防除実験の検証。
------	---

【観察園】

観察園内に設置した調査区23区（図2.6）で植生調査を行い、見本植生区（Ⅱ-①現植生・生物相の把握）の植生データと比較しました。また、経年変化も把握しました。

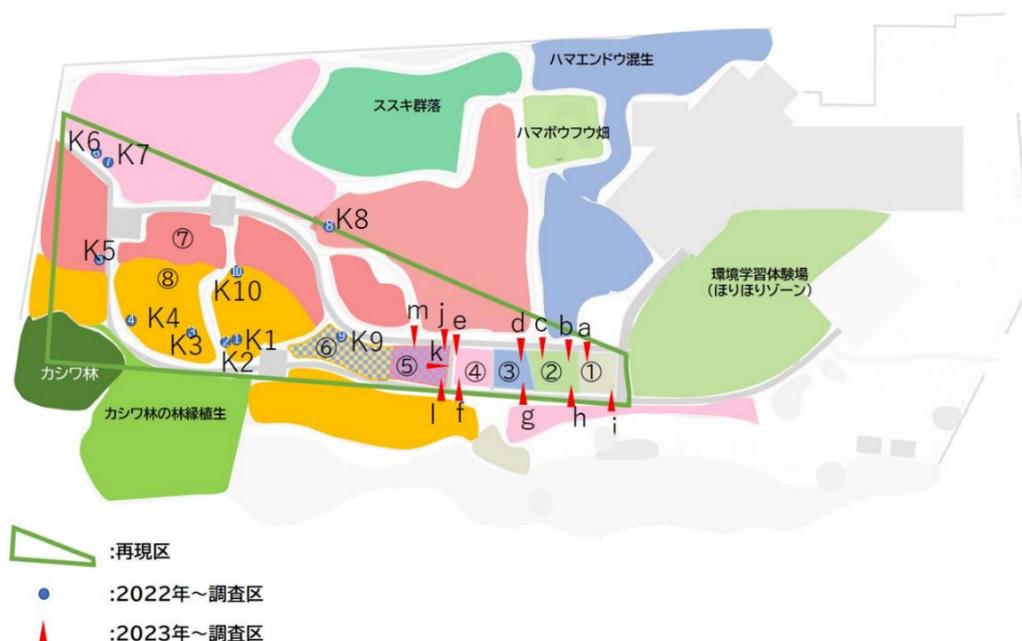


図 2.6 観察園調査区位置図

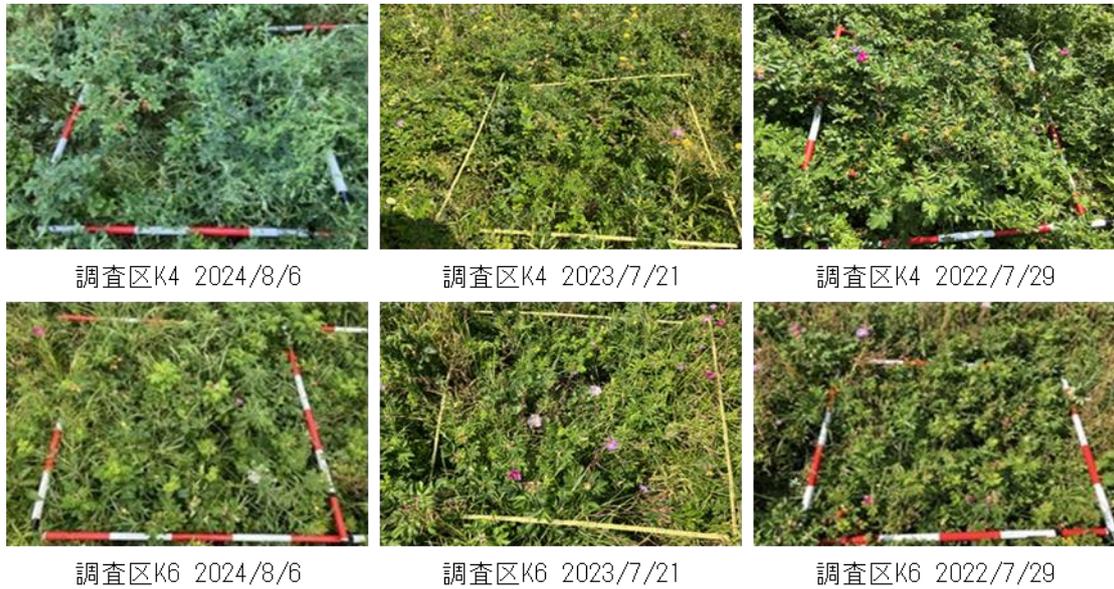


図 2.7 観察園植生の経年比較

K4 では、手を加えないことによりハマエンドウがほとんど見られなくなり、ヒロハクサフジが増えました。K6 では、昨年減少したハマナスが古枝の剪定により再び植被率を上げました。

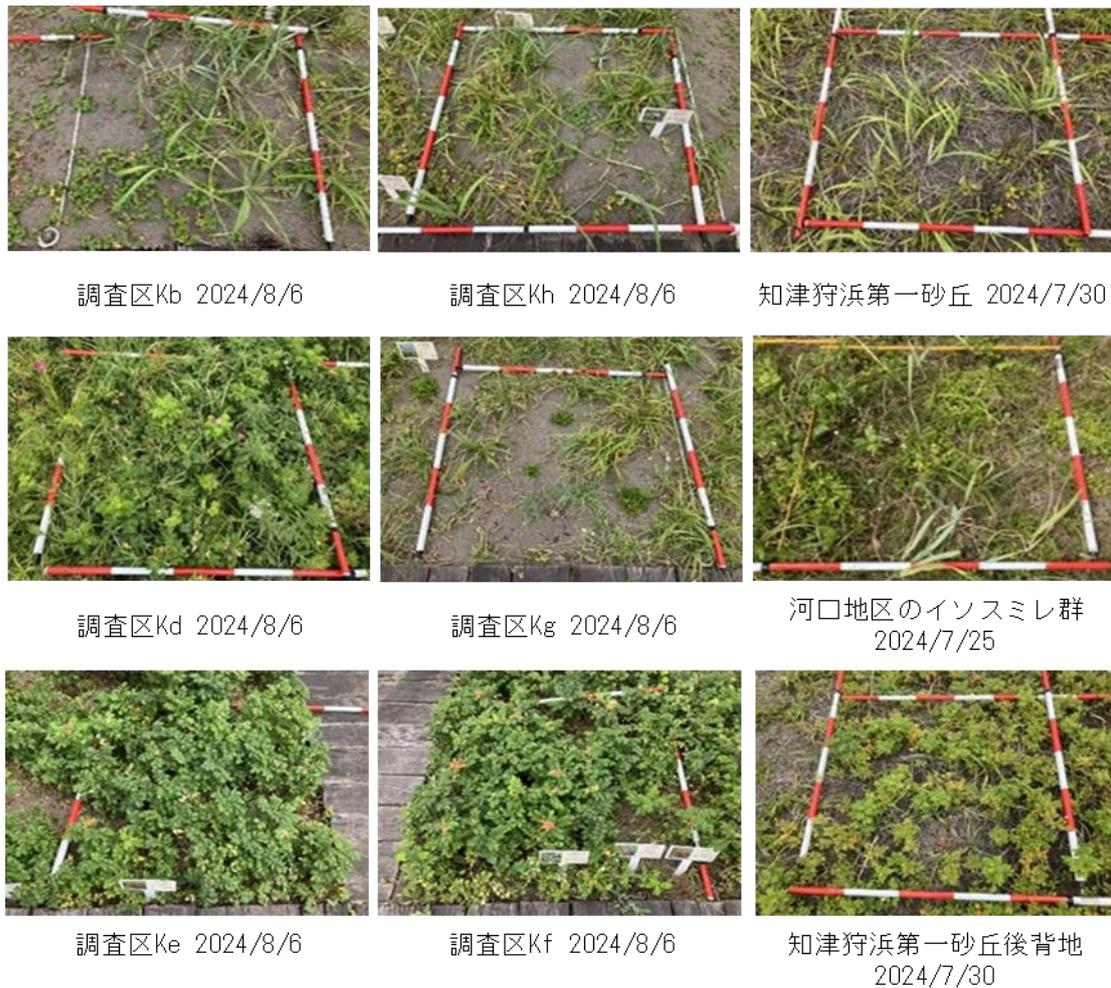


図 2.8 再現区の植生と見本植生の比較（不安定帯～半安定帯；②～④）

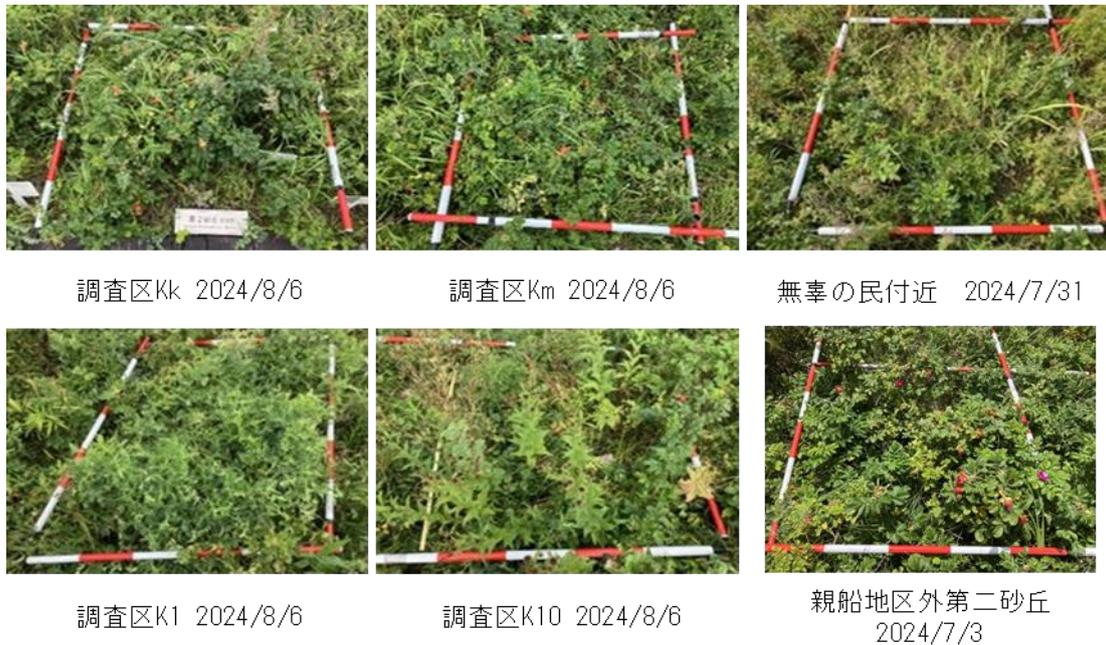


図 2.9 再現区の植生と見本植生の比較（安定帯⑤、⑧）

不安定帯～半安定帯の再現区では、すぐに内陸性の植物やコウボウシバ、ハマナスが増加しますが、管理により見本植生に近い状態が維持できていると思われます。イソミレは再現区では広がりやすく、移植は当面必要と思われます。安定帯の再現区では、見本植生に種組成が類似するよう移植や間引きを行ってききましたが、各ゾーンの特徴が不明瞭となりなすため、次年度以降、見本植生間で見られるハマナスの樹高やリター量の違いを各ゾーンの指標とすることにしました。

【ハマナス再生園】

継続して設置している調査区 22 区について植生を記録しました。このうち 8 区は 4 年以上除草作業などの管理を行っていない遷移状況観察区、7 区は海岸草原種の移植・播種によるチガヤ・外来牧草類の防除効果検証区、4 区はハマナス移植後の外来牧草類の増殖を防ぐためのハマナス・海岸草原種混植区、3 区はハマナス刈取り 5 年後の生育状況調査区です。



図 2.10 ハマナス再生園調査区位置図



図 2.11 遷移状況観察区の経年変化

全体として、ハマナスの植被率の低下は生じていませんでした。アキグミやチガヤの植被率が倍増した区でも、ハマナスやエゾカワラナデシコの植被率の低下は生じていませんでした。ハマナスの植被率の低下がどの段階で生じるのか経過観察が必要です。



図 2.12 S16における海岸草原種移植区の経年変化

チガヤの刈取りを行い、その後海岸草原種の苗を移植した区では、海岸草原種の苗は生残しているものの植被率はエゾカワラナデシコでわずかに上がったほかはほとんど上がらず、一方でチガヤの植被率は前年の刈取り前と同様となりました。ハマナスの植被率はほとんど変化がありませんでした。海岸草原種が生長した後チガヤの生育に変化が見られるか、経過観察が必要です。

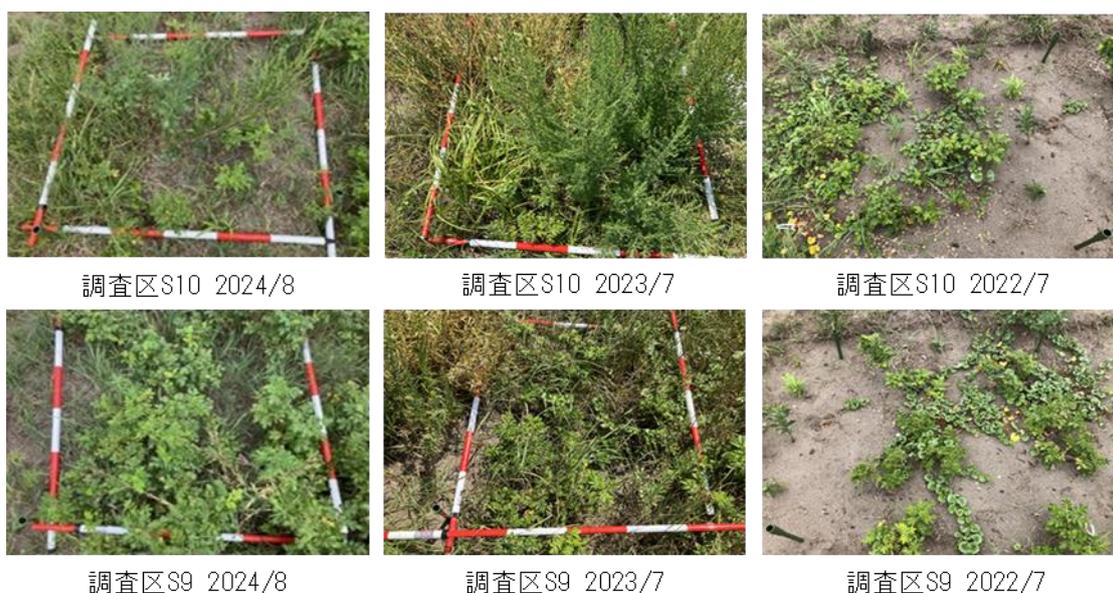


図 2.13 ハマナス移植時に海岸草原種を混植した区の経年変化（3年目）

※S9はS10の対照区

ハマナスの移植時に海岸草原種を混植した区（S10）では、移植後2年目に海岸草原種のエゾカワラナデシコ、オトコヨモギが植被率を高めましたが、3年目にはそれらの

植被率が下がりました。ハマナスの植被率は2年目とほとんど変わりませんでした。対照区（S9）では、ハマナスの植被率が前年の約2倍となり、隣接区（S10）からエゾカワラナデシコが広がってきました。両区とも外来牧草類の植被率は上がりませでした。ハマナス移植時の海岸草原種の混植は、外来牧草類の防除の面では効果はあると思われませんが、ハマナスを被圧する可能性もあり、種の選定を吟味する必要があります。また4年目以降も経過観察が必要です。



調査区2020D 2024/8



調査区2020D 2020/9

図 2.14 ハマナス刈払い後、5年経過した区の生育状況

ハマナスが自然増殖した後、枯損が目立ってきた群落を2019年秋に地上部をすべて刈払い更新を図りました。刈払い翌年の2020年にはハマナスは新しい枝を伸ばして勢いがありましたが、4年が経過した今年は、ハマナスの植被率の低下（-10～20%）が見られ、外来牧草類の種数もわずかに増えました。このよう群落では定期的な更新を図る必要があると思われませんが、外来牧草類やチガヤの拡大の可能性もあるので、部分的な刈払いが有効と思われれます。

③希少種

項目	目的
1. 希少種イソスミレの生育状況の把握	希少種イソスミレの生育地について、地理情報及び植生構成を押さえ、環境変化に左右されやすいイソスミレの保全対策に繋げる。
2. ハマボウフウの生育状況の把握	保護地区内外のハマボウフウの生育状況の比較と継続的な採取圧による生育への影響を把握し、今後の自然ふれあい地区におけるハマボウフウの科学的データに基づいた持続可能な資源利用への根拠データとする。
3. その他	環境省及び北海道のレッドリストに記載されている希少種、及び個体群として今後石狩浜で状況を押さえる必要がある種について、生育・分布情報をモニタリングし、対策に繋げる。

1. 希少種イソスミレの生育状況の把握

年度目標	イソスミレの分布と、個体群構成調査、周囲の植生調査の継続。★
------	--------------------------------

河口地区内では、分布状況について確認しました。結果として、2019-2020年の記録と概ね一致しました。親船地区では、今後の保全に向けて2群落で、面積当たりの株数、開花状況、株サイズの変化、周囲の植生などを調べました。次年度以降は、周囲の内陸性植物を刈り取りその影響を検証していきます。



図 2.15 調査した親船地区の株

無辜の民付近の群落は数株のみの生育で存続が危ういと判断し、9月に株の周囲の内陸性植物を刈取りました。引き続き生育状況をモニタリングしていきます。



内陸性植物除去前



内陸性植物除去後

図 2.16 無辜の民付近のイソスミレの保全作業状況

2. ハマボウフウの生育状況と採取の影響把握

年度目標	設定した調査ラインでエリアごとの生育状況、採取状況について把握する。★
------	-------------------------------------

これまでの調査結果から、エリア別の生育状況が短期間で大きく変わることはないと思われたので、今年度はハマボウフウに限った生育状況調査は行わず、エリア別（親船地区南西側エリア、親船地区内、河口地区、知津狩浜）に植生の帯状構造の実態を把握しました。



図 2.17 海浜植物と混生する内陸性植物（左：チガヤ、右：アキグミ・ススキ）

海側から内陸へ 25m ごとに見られる植物の種を記録した結果、親船地区南西端では、他のエリアに比べて、より海側の植生帯へ内陸性植物の分布が広がっていること、ハマボウフウが海側へ分布拡大していない状況にあること、がわかりハマボウフウの保全において留意が必要なエリアと思われました。

3. その他植物

年度目標	エゾスカシユリ、エゾチドリの分布状況について記録。
------	---------------------------

エゾスカシユリ、エゾチドリの生育状況調査を両種とも花期に合わせて実施しました。



図 2.18 エゾスカシユリ



図 2.19 エゾチドリ

④外来種

項目	目的
現状の把握	石狩浜の生物多様性保全のために、外来種の早期発見と防除の実施を検討する。

現状の把握

年度目標	他機関や他の調査等の情報をもとに、外来種の早期発見をすると共に、必要に応じて早急な防除対策に努める。★
------	---

石狩浜で実施している各調査データ等から外来種の情報を収集しました。また、自然保護課事業として実施している北海道指定外来種アズマヒキガエルの防除事業での成果を調査研究として掲示しました。



図 2.20 夏休み期間中における掲示物（カエルクイズ）

⑤資料・データの集約・管理

項目	目的
1. 標本の管理	地域資料の保管と、保全を進めるための情報の収集と管理をする。
2. 自然情報の収集・管理	環境調査、モニタリング、その他石狩浜に関わる調査研究の報告書などのデータを一括管理し、保全及び情報発信のデータベースとして構築する。

1. 標本の管理

年度目標	適切な環境で保存されるように、日常的な点検をする。
------	---------------------------

前年に引き続き保護センターの日常業務として湿度・温度の管理をし、必要に応じて除湿剤等を追加して状態の現状を確認しました。冬季閉館後には全ての防虫剤の取り換えと、状態の確認作業を行いました。

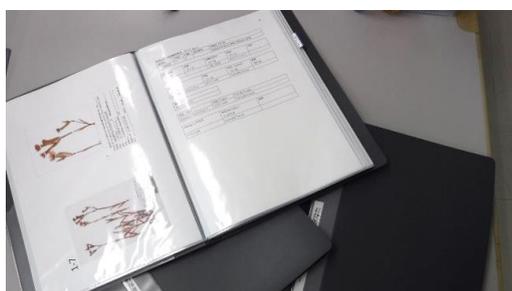


図 2.21 標本の一部

2. 自然情報の収集・管理

年度目標	収集データについて、まとめて公開できる体制を検討する。★
------	------------------------------

次年度以降に普及啓発をするために、主要な生き物について公開できる素材（動画及び静止画等）を整理しています。その他、手で触れる標本として樹脂封入標本の作製をすることで、冬季閉館中に普及啓発ができるように進めました。次年度以降について、作成した標本を展示や体験等で活用していきます。



図 2.22 樹脂封入標本の作製

Ⅲ. 自然資源の適正管理と適正利用

①保護地区の利用状況把握・監視・維持管理

項目	目的
1. 車両侵入の有無、誘導ロープ等の設置・修繕	条例に基づいた海浜植物等保護地区の海浜植物等を保全するための維持管理をする。
2. 単管柵の維持管理	

1. 車両侵入の有無、誘導ロープ等の設置・修繕

2. 単管柵の維持管理

年度目標	監視員の情報をもとに現状を把握し、必要に応じた対策を都度実践する。
------	-----------------------------------

海浜植物等保護地区監視員を常駐し、保護地区の看板の設置、保護柵の修繕、禁止行為への指導等を継続して実施しました。

②景観保全による観光資源利用

項目	目的
はまなすの丘公園木道周辺の植生維持管理	海浜植生の維持と、観光地の景観保全を目的にした植生管理を図る。

はまなすの丘公園木道周辺の植生維持管理

年度目標	公園内における持続可能で効果的な外来種等の防除を検証する。
------	-------------------------------

はまなすの丘公園に増えている外来種（ニセアカシア・セイタカアワダチソウ）と内陸性植物（アキグミ）について、監視員及び保護センター職員で除草しました。

③保護地区のルールを普及啓発

項目	目的
体験プログラムを通じた自生地保全の普及啓発	自然とのふれあいを通じて、保護地区や石狩浜の自然に関する普及啓発を図る。

体験プログラムを通じた自生地保全の普及啓発

年度目標	既存のプログラムに連動した保護地区の普及啓発の実施。★
------	-----------------------------

既存の環境学習に合わせて、保護のあゆみと現在の様子について現地での説明を交えて実施しました。また、展示（I-④）の調査研究コーナーで、4月29日から7月25日まで展示していた「春先の採取がその後のハマボウフウの生育におよぼす影響」の中で、ハマボウフウの適切な採取方法について掲載しました。



図 3.1 環境学習補助教材（保護の歩み）

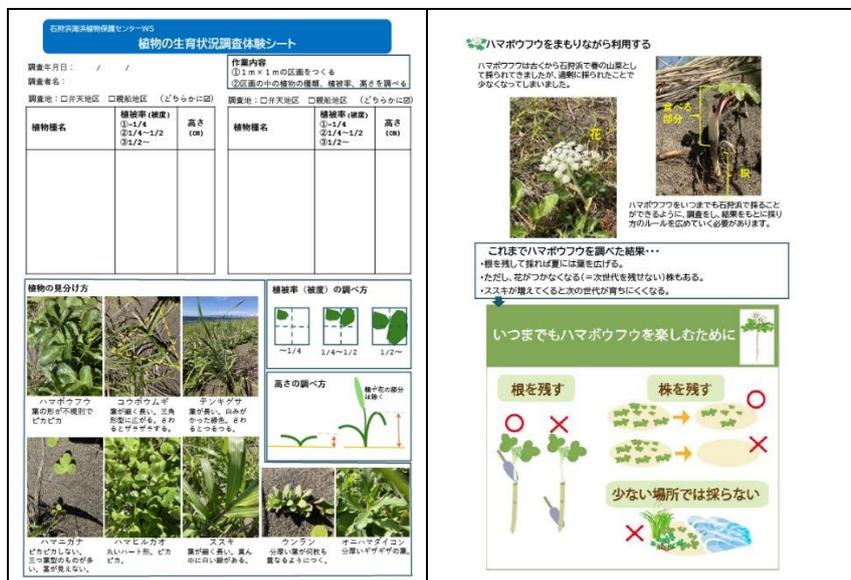


図 3.2 環境学習補助教材環境学習（ハマボウフウ）

IV. 石狩浜の自然に対するシビックプライド浸透のための基盤づくり

①環境学習・生涯学習

項目	目的
1. 教育機関へのプログラムの実施★	石狩浜の自然や海浜植物について、アクティブラーニングを主体にした学ぶ機会の創出を目指す。
2. センター施設を活用したプログラムの実施	
3. センター外での普及啓発の実施	センター外を会場に、石狩浜の海浜生態系を中心として、自然環境に興味を持ってもらうための普及啓発を実施する。

1. 教育機関へのプログラムの実施

年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な実施と見直しを続ける ・生物多様性の発信に向けた内容の見直し
------	--

石狩市内の教育機関から環境教育プログラムの実施要望があり、のべ14校433名の利がありました。前年度での実績をもとに、今年度当初に補助教材を見直し、より分かりやすい内容へと見直しました。また、引き出しクイズを再開し、展示でも子どもが興味を持って学びやすいような工夫を図りました。

また、Ⅲ-③で報告した通り、保護区について既存の学習に加えて保護区の成り立ちや、現状の課題にも言及する内容での環境学習に取り組みました。引き続き、石狩浜を通じて郷土愛の醸成を目指します。

図 4.1 環境学習補助教材

表 4.1 令和 6 年度の教育機関受入れ一覧

実施日	教育機関	学年	テーマ/内容	人数
5月31日	石狩翔陽高校	1年生	生物多様性ってなんだろう？ ・石狩浜の自然 ・石狩浜の課題と対策	40
6月12日	石狩八幡小学校	5年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について ・ほりほり体験	16
6月13日	緑苑台小学校	4年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について ・ハマナスの観察	53
6月26日	生振小学校	1・2年生	石狩浜ってどんなところ？ ・海浜植物について ・ハマナスの観察 ・クラフト体験 ・ほりほり体験	21
6月28日	石狩中学校	1年生	生物多様性ってなんだろう？ ・石狩浜の自然 ・石狩浜の課題と対策 ・漂着物からつながりを考える	19
7月10日	花川北陽 認定こども園	年中/年長	ハマナスの植え替え 石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	40
9月5日	厚田学園	4年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	5
9月18日	石狩中学校	1年生	生物多様性ってなんだろう？ ・石狩浜の自然 ・石狩浜の課題と対策	10
9月20日 24日	南線小学校	3年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について	180
9月25日 26日	花川小学校	3年生	石狩浜ってどんなところ？ ・石狩浜の成り立ち ・海浜植物について ・ハマナスの観察 ・ほりほり体験 ・石狩灯台について	40
10月2日	石狩八幡小学校	5年生	石狩浜ってどんなところ？ ・漂着物からつながりを考える	11
10月9日	生振小学校	1年生	石狩浜ってどんなところ？ ・クラフト体験（フォトスタンド） 海辺にあつまるもの調べてみよう！	15
利用件数（のべ）/環境学習受入れ人数（のべ）				14件 /443名

2. センター施設を活用したプログラムの実施

年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植生管理と連動した資源活用プログラムの開発 ・ 海浜植物の特徴を利用した体験プログラムの実施。
------	--

前年度に引き続き、根や地下茎を掘り起こすことで海浜植物の生態を体験から学ぶ「ほりほり体験」と、今年度から漂着物を使った「漂着物のクラフト体験」を加えて実施しました。

クラフト体験については、I-③-4で報告した他団体の主催するイベントにブース出展しました。体験内容として年齢を問わないため、小さい子から大人まで体験していただきました。季節や時期、年によって使える材料が異なりますが、年間を通じて管理作業中に発生する廃材の積極的な活用ができました。また、家に帰ってからもタネや実のことが分かってもらえるように、タネの写真と名前が載っているカードを作成し、海浜植物の普及に努めました。



図 4.2 フォトスタンドとカード

今年度初めての試みとして、親子参加型の昆虫調査体験会「海辺の昆虫さがし」を自然体験活動に取り組む市民団体「うみいく」と共催で8月3日（土）に開催し、子ども16名、親7名が参加しました。観察園と再生園で捕虫網と目視により昆虫を採集し、採集した昆虫を観察しました。（II-①）



図 4.3 昆虫採集の様子



図 4.4 採集した昆虫を観察する様子

3. センター外での普及啓発の実施

年度目標	・石狩浜トランクキットや、センタープログラムを活用した市外イベントへの参加協力
------	---

浜益区で実施しているグリーンインフラの実証実験に伴う浜益学園での学習、石狩市民文化祭・浜益会場、石狩海岸海浜美化をすすめる会の学習会など、外部事業で積極的に石狩浜トランクキットを活用しました。また、館ネットワーク事業や科学の祭典 in 石狩（I-③-4）では、クラフト体験を通じて石狩浜を離れた場所で石狩浜の自然を学ぶ機会を設けることができました。

さらに、トランクキットや標本を使った実学と、ハマナス再生園で刈り取ったチガヤを使ったわら細工のワークショップを組み合わせた活動を「うみいく」と共催で12月7日（土）に開催しました。



図 4.5 浜益区でのトランクキットの活用



図 4.6 トランクキットとチガヤを使ったワークショップ

②ハマナスを活用した普及啓発

項目	目的
ハマナス再生プロジェクト	ハマナスをシンボルとした石狩浜の魅力向上と、自然環境保全に対する普及啓発を石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会とともに目指す。

ハマナス再生プロジェクト

年度目標	・再生園のハマナスを活用したイベント、体験や学習の受け入れ協力 ・地域資源として花卉・花びらを活用する企業への協力★
------	---

ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地

域づくりを目指すことを目的に、市民・事業者・石狩市が連携をして「ハマナス再生園」の整備に取り組み、イベントの実施やハマナスの商品づくりを通じて石狩浜と地域の魅力を発信することを目的とした事業です。

ハマナスの花が最盛期を迎える時期に合わせて、石狩浜ハマナス再生プロジェクト協議会との共催で開催する「はまなすフェスティバル」は、昨年同様に「いしかり本町 灯台とハマナス Day」と同日の6月9日（日）に開催しました。ハマナス再生園を会場に花摘みと、ヒメスイバの除草を組み合わせたプログラムや、保護センターの展示を活用したハマナスなぞときクイズ、石狩浜の生物多様性を表したイラスト顔出しパネル、野外ブースを会場に花びらを使った蒸留実演、ハマナスを使った食品や雑貨の販売、ワークショップなどのブースを設け、約500名が来場しました。広報は、市内小学校へのちらし配布や、広報いしかりなどで宣伝しました。ハマナスをきっかけに石狩浜の自然の豊かさをPRする場として、今後も継続して実施していきます。

今年度の初めての試みとして、夏休み期間にハマナスの実摘み体験や、石狩さけ祭りに合わせたハマナスのクイズとクラフト体験を連動した取り組みを行いました。

ハマナスを使った商品を通じて石狩浜の保全を広げるため、事業者によるハマナス再生園での花卉、果実の採取を取りまとめました。今年度の花卉は約11kg、果実は約4kgの採取となりました。



図 4.7 はまなすフェスティバル 2024 様子

③参加型普及啓発

項目	目的
市民参加型の自然情報収集	オンラインフォームを活用し、自発的に石狩浜の自然を観察する人を増やす。

市民参加型の自然情報収集

年度目標	情報フォームの作成、集めた情報の公開基準、保管などの体制を整える。★
------	------------------------------------

投稿ができるようなフォームの作成はしましたが、目的等がセンターの事業と合わなかったため実証に至りませんでした。作成したフォームとセンターの事業をうまくすり合わせ、実証に至るように検討を重ねていきます。



図 4.8 GIS を活用した情報投稿フォーム

利用状況

(1) 年度別にみる来館者数の比較

令和6年度の開館期間中の来館者数は3,251人でした。令和5年度、令和6年度に来館者数の月変化と年度比較、平成12年度からの来館者数の年変化は、以下のグラフに示したとおりです（表1、表2）。

表1. 令和5年度・令和6年度に来館者数の月変化と年度比較

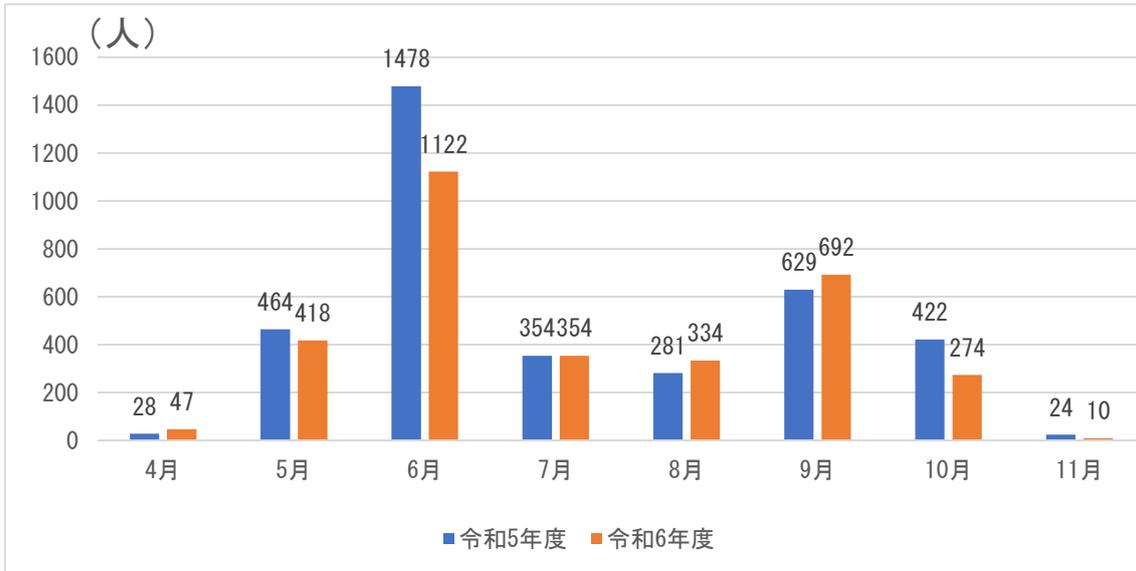
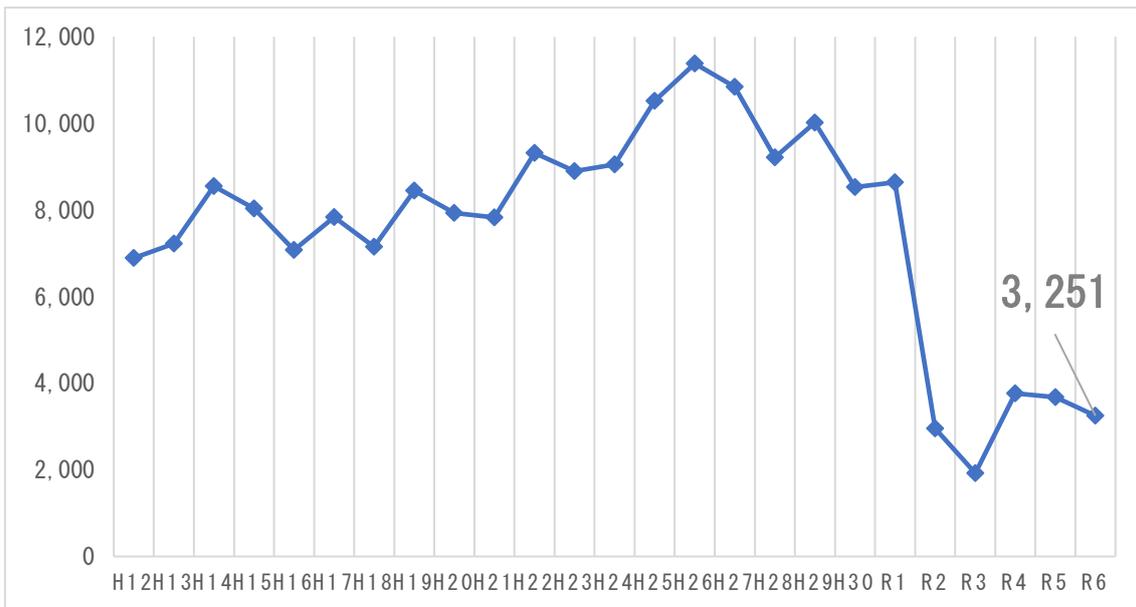


表2. 平成12年度～令和6年度に来館者数の年変化



※R2. 4. 29～R2. 6. 7 まで臨時休館（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）

※R3. 5. 16～R3. 6. 20、R3. 8. 27～R3. 9. 30 まで臨時休館（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）

(2) 利用目的と来館者内訳

令和6年度の来館者数の内訳として、一般来館者と教育施設利用者との人数の割合をグラフに示しました。さらに一般来館者の中で海浜植物と触れ合うきっかけとなるクラフト体験をした人数の割合も示しました(表3)。保護センター施設外での体験イベントへの参加・来場者数を表4に示しました。来館者の数字は令和元年ごろから減少しておりますが、滞在時間の増、目的に見合った施設利用については年々向上しているように推測されます。

表3. 令和6年度の来館者数の内訳

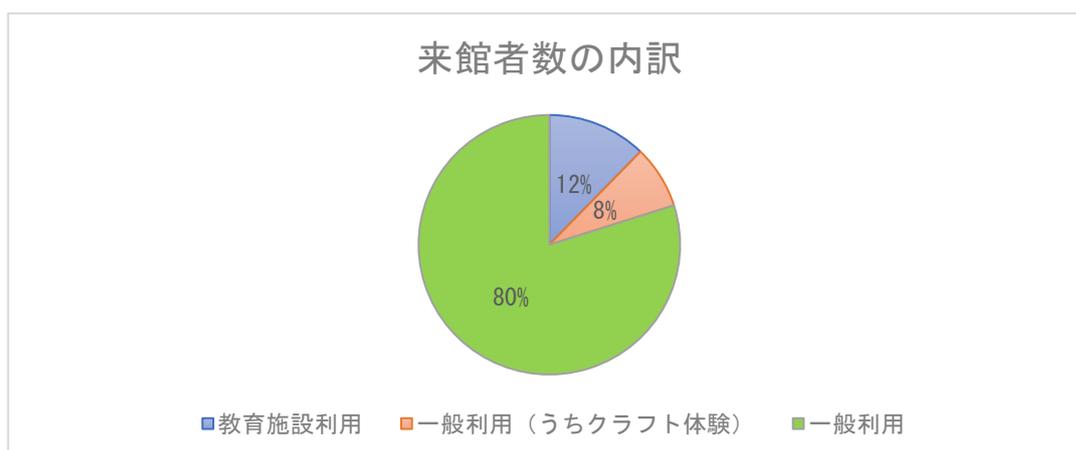


表4. センター施設外での普及啓発体験者数

日時	イベント名	体験内容	参加者数
7月27日(土)	わくわくコーナー夏休み館ネットDAY	クラフト(コルクボード)	46人
9月22日(日)	第14回科学の祭典 in 石狩	クラフト(フォトスタンド)	147人
令和7年 1月9日(木) 10日(金)	第10回CISEサイエンスフェスティバル	トランクキットを活用した石狩浜の普及啓発	来場者数 9日1,011人 10日1,221人

施設利用(団体)

ツアーや講座等による3団体の利用がありました。(教育機関の団体利用は、IV-①-1 令和5年度の教育機関受入れ一覧参照)

表5. 令和6年度石狩浜海浜植物保護センター団体利用状況

	利用日	団体名	利用人数(人)
1	5月18日	石狩市民カレッジ	27
2	6月25日	日本メディカルハーブ協会	21
3	7月6日	茶道・裏千家青年部札幌	7

調査報告一覧

石狩浜海浜植物保護センターが発行した調査報告は以下の通りです。

表 2. 「石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告」

	タイトル	号数	刊行年
1	石狩浜における植生モニタリング区の設置と 14 年間の植生変化 (2002 年度石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告)	第 1 号	2006
2	石狩川河口湿地部における植生モニタリング区設置と植生概況 (2003 年度石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告)	第 2 号	2006
3	石狩海岸林の植生概要 (2004 年度石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告)	第 3 号	2006
4	石狩浜定期観察による植物開花状況の記録(2004/2005)	第 4 号	2006
5	石狩浜定期観察による植物開花状況および野鳥の記録 (2006)	第 5 号	2009
6	聚富海岸の植生概況	第 6 号	2009
7	石狩浜定期観察による植物開花状況および野鳥の記録 (2007)	第 7 号	2009
8	1989 年以降に記録された石狩浜の植物種リスト	第 8 号	2009
9	2008 年から 2010 年の石狩浜定期観察による植物開花状況等の記録	第 9 号	2012
10	石狩川河口部砂嘴における植生分布の変化	第 10 号	2012
11	石狩川河口右岸地区におけるイソスミレの探索結果	第 11 号	2022
12	石狩浜のハマボウフウの生育状況の地区別比較	第 12 号	2022
13	2022 年のイソスミレの分布地点別生育状況の比較	第 13 号	2024

石狩市が発行した石狩浜に係る自然調査報告は以下のとおりです。

表 3. 植生に関する調査報告

	タイトル	刊行年	発行
1	石狩湾新港地域海浜植生調査報告書 ／別図（植生分布図）	1976	石狩町
2	石狩海浜地区植生調査委託業務	1989	石狩町・日本データ サービス
3	石狩川河口地域植物調査報告書	1989	石狩町
4	石狩川河口地域植物調査追加報告書	1990	石狩町
5	石狩町植生概況調査報告書	1996	石狩町・石狩町緑化 推進協議会

表 4. 野鳥に関する調査報告

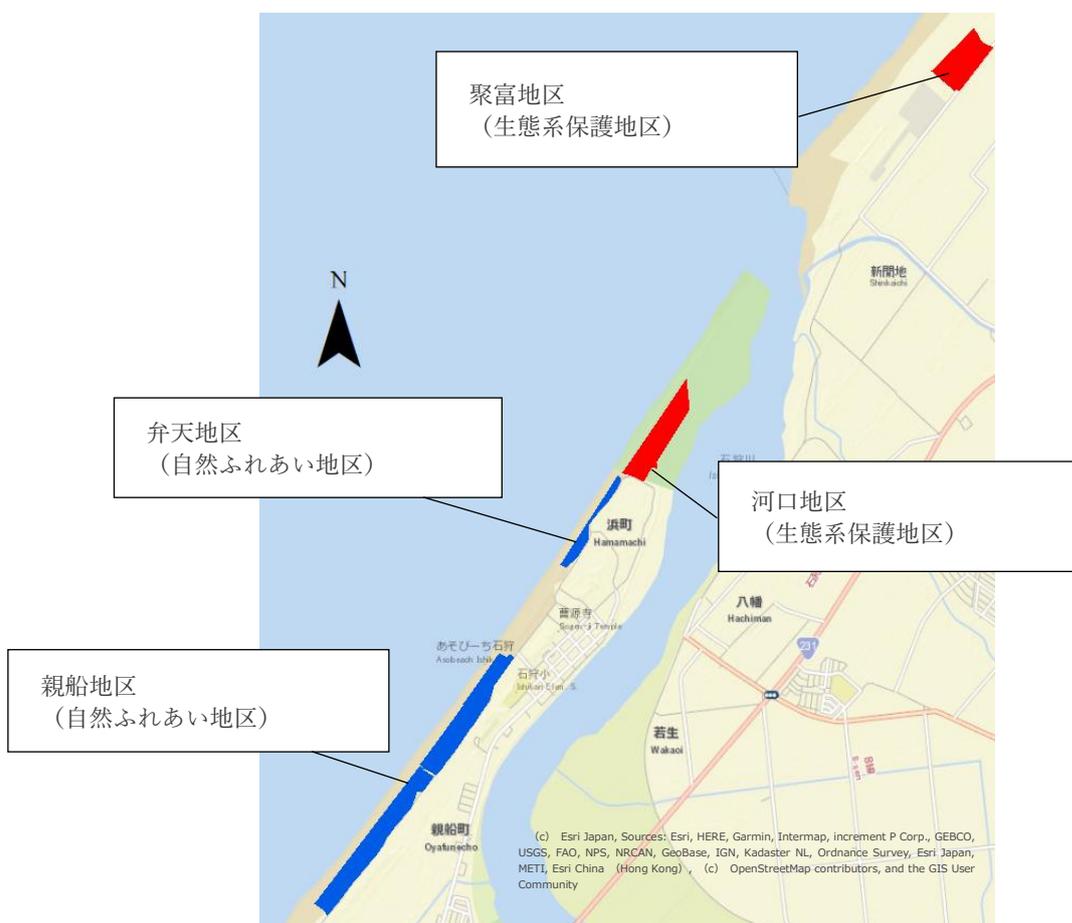
	タイトル	刊行年	発行
1	石狩市野鳥生息概況調査報告書（平成 8 年度）	1996	石狩市
2	石狩浜の野鳥リスト（1997～2009）	2009	石狩市

海浜植物等保護地区

「石狩市海浜植物等保護条例（平成 12 年 3 月 30 日制定）」に基づき、海浜植物等保護地区を指定しています。

保護地区では、すべての植物採取を禁止している「生態系保護地区」と植生維持に影響のない範囲の採取は認めている「自然ふれあい地区」に区分していますが、いずれも看板や車両侵入防止柵を設置し、海浜環境の保全と利用状況の把握に努めています。また、4 月から 9 月までは監視員を配置し、巡回による監視を行っています。

親船地区西端から石狩湾新港東埠頭東端にかけての延長約 2.6km、約 33.7ha の海岸保全区域については、海岸管理者が植生保護を目的に車乗り入れ防止柵を設置していますが、侵入が後を絶たない状況でした。そのため、海岸管理者等で構成される「石狩浜環境保全連絡会議」では、このエリアについて、柵の補強等の対策に加え、段階的に市条例に基づく保護地区の拡大を図ることが合意されており、平成 30 年 5 月には、条例を一部改正し、「親船地区」を西側へ 1.2km、面積約 15ha を拡大し、保護地区は 54.3ha となりました。



沿革

石狩浜海浜植物保護センター開設の目的

石狩海岸地域は、北海道自然環境保全指針において「すぐれた自然地域」に抽出されるとともに、大都市近郊において、海岸砂丘の生態系を色濃く残す自然海岸として、全国的にも大変貴重な地域となっています。しかし、美しい海浜植物や雄大な海浜景観は、レジャーをはじめとする過度な利用により、次第に失われつつあります。

このような状況において、豊かな海辺の自然を市民共有の財産として保全し、後世へ残して行くためには、市民、行政、研究機関とが協働して普及啓発活動や調査研究活動に取り組むことが不可欠です。石狩浜海浜植物保護センター（以下、「保護センター」）は、その活動拠点として、平成12年4月に開設されました。

施設概要と業務内容

名称 石狩浜海浜植物保護センター

所在地 石狩市弁天町48番地1

tel. 0133-60-6107/fax. 0133-60-6146

規模 敷地面積：11,244.1㎡

センター／木造2階建、延床面積：259.5㎡、建物高：10.9m

温室／鉄骨造平屋建、延床面積：42.5㎡

保護センターは、①海浜植物の保護に係る調査・研究、②石狩浜保全への啓発を目的とした施設です。野外調査から得た情報をもとに①に繋げ、石狩浜の保全について展示室・観察園・再生園から発信しています。

【展示室】

基本的な石狩浜の自然情報の紹介、保護の歩み、海浜植物の生態、植生の変化などについて展示をしています。野外調査で得た情報についても反映することで、最新の石狩浜の自然について文章や写真を用いて発信しています。

【観察園】

展示室と連動した観察園作りを念頭に、野外調査をもとに石狩浜の海浜植生（成帯構造）を再現しています。来館者が快適に園内を利用できるように、種名の配置、安全管理を実施しています。海浜植生の維持管理については、より効果的な維持管理手法を検討すると共に、海浜生態系の保全手法の蓄積を図っています。

【再生園】

「ハマナスの咲く石狩浜の風景を未来に残し、ハマナスをシンボルに自然と共生する地域づくり」を目的とした「石狩浜ハマナス再生プロジェクト」の一環で整備しています。ハマナスが彩る砂丘植生を再生するための試験地だけではなく、市民参加型の維持管理を続けています。また、ハマナスから得る花びらや果実は、環境学習利用や、石狩浜の普及啓発のための商品の原材料等で活用しています。

以下、保護センターにおける主要業務を示します。

○啓発・普及業務

展示施設・自然観察園・ハマナス再生園の維持管理

施設見学者への対応/講座・観察会等の開催/市民に対する情報提供・機関紙の発行・ホームページの管理・運営/ボランティア・各種団体・研究機関との連絡調整

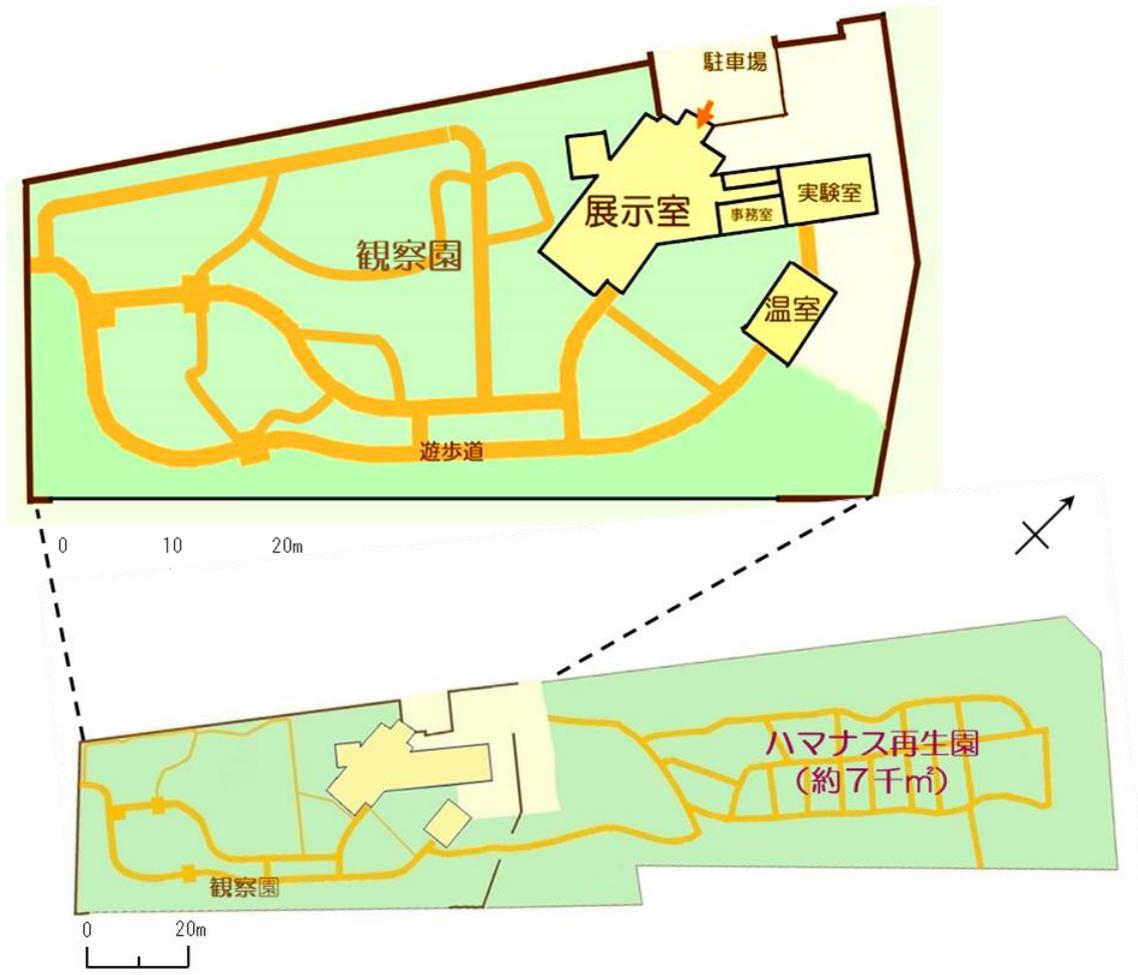
○調査・研究業務

石狩浜の動植物の生息、生育状況に関する調査

海浜生態系の保全に係る調査研究と実施

海浜生態系の保護・保全計画の立案と実施

海浜生態系の保全に調査研究活動支援



石狩浜海浜植物保護センター施設略図

石狩浜海浜植物保護センター利用案内

開館期間 4月29日～11月3日

開館時間 10時～16時

休館日 火曜日（祝日の場合はその翌日）

入館料 無料

駐車場 あり

交通 北海道中央バス「札幌バスターミナル」発

「石狩」行き約60分 「石狩温泉前」下車

徒歩5分

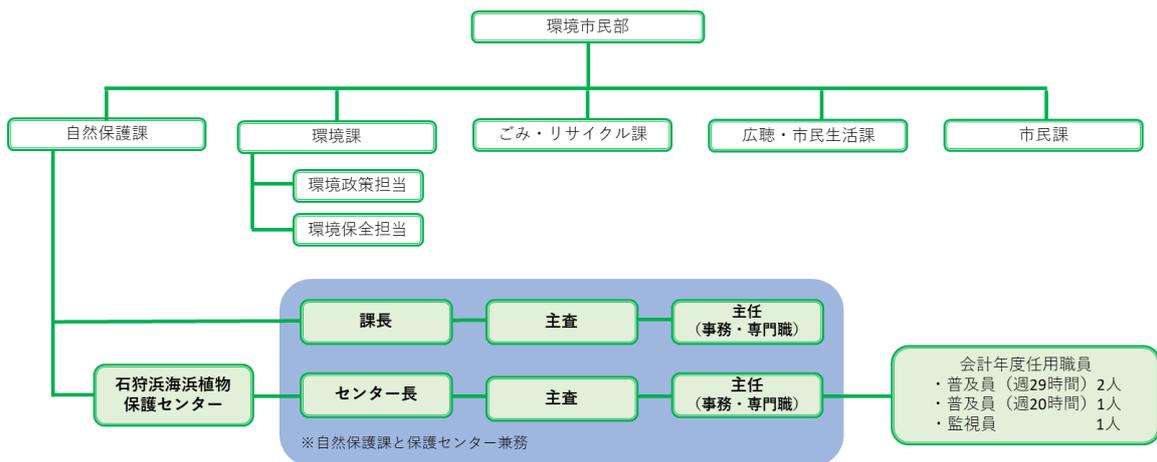


◆石狩浜海浜植物保護センター運営委員会名簿

(第12期：令和6年4月1日～令和8年3月31日)

会 長	溝 渕 清 彦 (公益財団法人 北海道環境財団)
副会長	長 谷 川 理 (特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所)
委 員	西 川 洋 子 (地方独立行政法人 北海道立総合研究機構)
委 員	松 島 肇 (北海道大学大学院農学研究院)
委 員	圓 谷 昂 史 (北海道博物館道民サービスグループ兼自然研究グループ 学芸員)
委 員	氏 家 歴 (石狩市立石狩中学校 総合担当主任)
委 員	石 山 優 子 (うみいく)
委 員	鈴 木 玲 (石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク)
委 員	小 林 卓 也 (公募)

◆職員構成



令和 6 年度石狩浜海浜植物保護センター活動報告書

令和 7 年 4 月 発行

発 行 石狩市

編 集 環境市民部石狩浜海浜植物保護センター

開館期間中 〒061-3372 石狩市弁天町 48-1

tel. 0133-60-6107 fax. 0133-60-6146

冬季閉館中 〒061-3292 石狩市花川北 6 条 1 丁目 30-2

tel. 0133-72-3269 fax. 0133-75-2275

E-mail ihama@city.ishikari.hokkaido.jp

HP <http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/site/kaihinsyokubutu/index.htm>